

京都教区時報

第191号

田中司教認可

毎月1日発行

発行 京都司教区 発行責任者 村上透磨

編集 京都教区時報編集室 住所 京都市中京区河原町三条上る河原町カトリック会館5F



9

1993

9月15日は敬老の日。私達はその日特別にお年寄をいたわり尊敬を表します。独り暮らしのお年寄を慰めたり、入院しておられるお年寄を見舞つたりして過ごします。高齢期は人生の大切な時、人格をみがく最後の時です。しかし、お年寄にとってその時こそさびしい思いをしておられるのではないでしようか。今まで元気一杯活躍しておられた方は自分の体力の衰えや能力の限界を感じるつらい試練の時でもあると思います。

私達は9月の間だけお年寄を大切にするのではなく、神に愛された大切な人、私達にとつても価値のある事を認め、倣うべきだと考えます。お年寄は日々「いたみ」や「さびしさ」に耐えておられます。これは私達に対する大きなあかしであり、恵みです。私達の模範であります。

ご存知のように日本の社会はますます高齢化が進み、どこへ行つても高齢者の多いことに気がづきます。人は誰ても年をとります。私もあなたも通らなければならぬ道なのです。

(ニュージェント神父)

宣教司牧評議会報告

6月12日から13日に開かれた宣教司牧評議会に於いて、91年10月に実施された京都教区アンケート「よりよき福音宣教共同体となるために(適正配置)」の解説書が完成し、7月初め司教に答申されました。

解説書の全文はここに掲載できませんが、添付された用語の解説を順次紹介します。

尚、会議の中でも、NICE2、平和への歩み、資料委員会、青年センター、アジア交流委員会の報告がありました。

〔用語解説〕

(注) 文中の条項数字は「カトリック新教会法典」の条項です。

●「公会議」

全世界のすべての司教が、その頭である教皇と位階的交わりのゆえに構成する団体を「司教団」といいます。この司教団が普遍教会(全世界教会)に対する権限を莊厳に行使する場を「公会議」という。

教皇のみがこれを招集し、司教団は全世界に散在している司教たちと一体的行為を通してその権限を行使する。開催される地名を取つてその会議の名称とする慣例があります。歴史的には初代教会からその実践があり、主にその時代の必要に応じて教義上の重要な問題を解決してきた。十六世紀に開かれた「トリエント公会議」以降、約四百年ぶりに教皇ヨハネ23世によつて招集され、教皇パウロ6世によつて閉幕された「第2バチカン公会議」(1962年~1965年)は、カトリック教会の現代化を図る教会史上、画期的な公会議であった。

●「京都教区ビジョン」

81年11月23日、京都教区創立記念ミサ(44周年)で田中健一司教によって発表された「京都教区ビジョン宣言文」の中で示された京都教区の宣教方針。第2バチカン公会議の約15年後の京都教区で、1年半の歳月をかけて教区民あげて入念に準備された。公会議の精神に照らして教区の現状を把握反

●「兼任」・「巡回教会」・「共同司牧」

一人の司祭が複数の小教区の司牧のためにそれぞれの小教区の主任司祭として任命された場合、この司祭はたとえばA教会とB教会を「兼任」していると言われる。そしてこの司祭がA教会に定住している場合、B教会は「司祭非定住教会」の意味で從来から「巡回教会」と呼ばれる。

「共同司牧」は、數名の司祭が連帶的に一つまたは複数の小教区

●「教区賦課金」

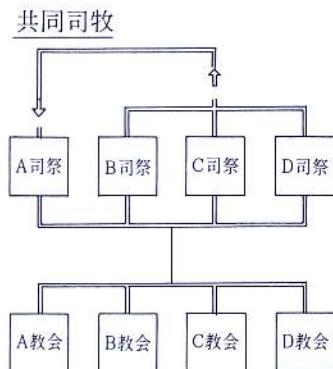
教区財政を支援するために教区内の各小教区が教区に納めるべきもの。現行では毎月の教会維持費と毎日曜日・祭日のミサ中献金(通り抜け献金を除く)のそれぞれ十分の一を納入する。現在は京都教区内のいくつかの修道会もこれに協力している。教区としてはこれを教区経常費、超小教区活動補助費、小規模小教区補助費、ローマ聖座の世界緊急援助基金への協力費などに充てている。

(次号へつづく)

省しながら、長期的な展望のもとに「社会とともに歩む教会」という宣教の basic 理念を採択した。

●「小教区」

教区(部分教会)の中で恒常的に設立された、一定のキリスト信者の共同体を言う(第515条)。区画された地域や教会堂を指すのではないことに留意しなければならない。従つて、領域をもたない、たとえば典礼、言語、国籍などの理由で定められる小教区(属人小教区)もあり得る。「小教区」の司牧は、教区司教の権威のもとに、固有の司牧者としての主任司祭に委託される。



の司牧することを言う(第517条第1項)。司教はその中の1名をそのような司牧的配慮の責任者として任命する。この司祭は連携活動を指導し、かつそれについて司教の前で責任をとらなければならない。

特別聖体奉仕者学習会

京都福音センター主催の93年特別聖体奉仕者学習会が6月27日に、三重県カトリック研宗館で行われました。これは、昨年京都で開催された学習会で参加者からプロックでの開催要望が強かつたため、三重地区の特別聖体奉仕者を中心開催されたものです。

当日は三重地区だけでなく、京都、奈良からも特別聖体奉仕者29名が参加しました。

まず、田中司教より、「特別聖体奉仕者は、小教区の司祭の推薦によって任命されている各共同体の中枢的存在であるが司祭と信徒の間に位置する中間管理職的存在ではなく、神の民の中であつて共同体の共通善に向かって奉仕する者である。

初代教会の殉教者タルチシオに倣い、ミサとは何か、自分が手にし、人々に配布する聖体とは何かをわきまえ、マンネリ化を避けるため、この機会に奉仕職の理論を復習し、自分を見直し、互いに貴重な体験を分かち合い、小教区共

同体が福音宣教共同体に成長していくよう神の導きを願いながら励んでください」との講話がありました。

引き続き柳本神父から「信徒の奉仕職について」講義を受け、基礎コースで学んだキリストの王職、祭職、牧職、を受け継ぐ信徒の使命を復習し、第2バチカン公會議によつて教会の外面向的なものは変わつたが、福音の精神は変わらないこと、信徒の奉仕職に馴染めない人を古い人と断罪せず、何故主日が義務だと言わってきたのか、奉仕職の祭儀に集まることの大切さを時間をかけて話して配慮することが大切であることを学びました。

昼食、休憩の後、森田神父(津)の「典礼的な側面から」と題する講義を受け、典礼、秘跡は、信仰をもつて祝う祭り、神と出会う場、救いのみ業を記念し感謝と賛美をささげる場であつて恵みの自動販売機ではないこと、特にみことばの祭儀、病床訪問に

おいては、聖体を配ることに終始しないよう注意が必要であること。聖体に対する尊敬と聖体奉仕の際の具体的な動きについて学習した。

続いてジャクソン神父(津)の教会構造についてのアンケートに自分の考え方似ている項を選び、

京都南部地区・柳本師
京都北部地区・赤野師
奈良地区・タロック師
滋賀地区・福岡師

三重地区・森田師

青少年担当地区責任司祭

7月8日の司祭評議会で、青少

年担当司祭の地区責任者が発表されました。

京都南部地区・柳本師
京都北部地区・赤野師
奈良地区・タロック師
滋賀地区・福岡師

御杖村山仕事教室の案内

奈良県宇陀郡御杖村に、フランシスコの山がある。ここに、フランシスコ会のチネカ師によつて、山の自然を守りながら、「障害児・者」の作業場や都会の人々にワーキング・キャンプを提供するために、

レーベンス・シェーレ(生活を学ぶ学校)が創られた。

現在ログハウスは完成していて「山仕事教室」が開かれている。
・月例開山日: 第3・4土日
・週例開山日: 水木(月1・2回)
来られる際は左記へ連絡を。

後、研宗館聖堂でミサ聖祭に参加し学習会を終了しました。

(M・F)

なお、学習会に参加された感想及び学習会に対する希望等を福音センターまでお寄せください。

筆者: 地上0726-7517414
事務局長: 江端0720-3103557
現地指導員: 井上0745952098

こ
ん
に
ち
は
シ
ス
タ
ー



京都教区の皆さん

はじめまして！

私はこの4月よりこちらの教区に仲間入りさせていただきまし

たマリアの娘エスコラピアス修道女会のものでございます。写真左

からSr.出馬希美代、Sr.テレサレサウン、Sr.岩間尚子、Sr.渡辺康子で

私たちの修道会は家庭と学校の使徒といわれている福者パウラ・モ

ンタルによつて1829年スペインに創立され、現在修道会本部は

ローマに、日本管区本部は東京世田ヶ谷にあります。会の精神は聖ヨゼフ、カラサンスの靈性にいき、マリアの娘として「子供たちに神の愛を教え、家族を救う」という創立者のモットーのもとに貧しい人々を優先し、幼児及び青少年の教育を通して国の建設のために働くのが目的です。

今回、神様の導きにより、三重県四日市市に於て、学校法人女子メリノール学院及び学校法人エスコラピオ学園男子海星中、高等学校で教育事業に参加させていただいているります。

私の共同体が関西にできたのははじめてです。皆様の暖かい指導とご協力のもとに一日も早くこの社会にとけこむと同時にキリストのよいパン種となつて社会をかえて行くことができるよう願つております。

小さな家ですが、是非おでかけ下さい。お待ちしております。

〒510-2重県四日市市泊町12-9
エスコラピアス修道女会
☎ 0593-45-6940



召命錬成会報告

京都教区召命促進委員会では、青年男女を対象に年2回、初夏には錬成会を、秋には默想会を行っていますが、去る6月19日から20日にかけて、三重県津の研宗館で召命錬成会が行われました。

『自己との出会い、キリストとの出会い』というテーマのもと、参加者は4名と少しきみしかったのですが、スタッフ4名と参加者との分かち合いが活発に行われました。

「召命」というと、司祭や修道生活への召命を第一に考えてしまいがちですが、結婚生活も含めて、キリスト者の生き方を広く「召命」と考え、青少年がこれから生き方を見出すために、召命促進委員会ではお手伝いさせていただこうと考えています。

今回の錬成会では、自分が今まで歩んできた道を祈りのうちにふりかえりながら、そのなかで転機となつた体験、重要な体験を中心、祈りとシスターのプレゼンテーションで体験を深め、キリスト

トとの出会いに気づいていくというプログラムですすめられました。導入として、司祭から自らの歩みの体験の話を聞いた後、各自が生まれてから今までの歩みを年代ごとに（幼稚園、小学生、中学生……）振り返りながら、自分にとつて大きな出来事をいくつか思い起こしました。

祈りや、お互いの体験についての分かち合いを通して、自分の体験を深めた後、「キリストとの出会い」というテーマでシスターからプレゼントテーションを受け、自分の生涯の中で確かに導いてくださいさつしている神様の働きを皆で再確認していました。

参加者が4名と少なかつたのですが、人数が少ない分、逆により親密で内容の濃い分かち合いができる、スタッフにとつても、自らの体験を深めるためによい錬成会であつたという反省がなされました。

「召命」というと、少し窮屈に感じるかもしれません、今までの自分の生き方を見つめ、これらの生き方を考える時として、錬成会や默想会に参加してくださればと思つています。

召命促進委員会（森田直樹）

侍者默想会感想文(続)

この合宿に参加して

坂西祐輔

去年もおとどしも、この合宿には参加していましたが、今年は忙しくていけないと思っていたのですが、また来てしました。僕は、あまり聖書のことを勉強したり、みんなで話し合つたりするの得意ではないのですが、今回もそれなりにがんばって、頭をひねつていろいろ考えたつもりです。

今年の合宿は、同じ教会の友達もいたりして気楽に過ぎませんでした。毎年、この合宿では、一つの福音をみんなでいっしょに考えることが主になっていますが、今年勉強した福音もとても心に残りました。最初に読んだときは、あまり内容や意味がわからなかつたのですが、何回も読んでいるうちにじわじわとわかってきて、聖書というのは何回も読めば読むほどおもしろくなるものなのかなと思いました。

ふだんはあまり聖書は読まないのでこういう機会はぼくにとってはすごく貴重な体験でした。来年もまた来れたら来たいと思います。

カトリックスカウト

C B S

宗教トレーニングキャンプ

カトリックスカウト京都教区支部では、第13回宗教トレーニング・キャンプ(カトリック・スカウト練成キャンプ)を京都市北区の「指月林」で4月2日(金)から4月(日)の2泊3日で、テーマ「キリストの苦しみと世界の苦しみ」のもとに開催した。

このキャンプには教区内B.S.団6団、G.S.団4団、スカウト数B.S.14名、S.S.7名、G.S.団Sr.13名、Ra.7名計41名の参加があつた。

このキャンプは毎年新中学2年生および高校生年代のスカウトを対象とし、支部全体のスカウトに呼びかけ、信仰入門教育の一環としておこなつてあるものである。今回のテーマは「キリストの愛を知る」3回シリーズ(11回のテーマは「主の祈り」とし、祈る心と大切な祈りを知る、12回は「愛」とし、キリストの愛と母の愛を考

える)の3回目としてキリストの「受難」を中心テーマに取り上げ、キリストの苦しみからキリストの大いなる愛を感じ、また、また、それを通して世界を見渡し、スカウトが今考えなければならないことの糸口を探すことをめざしてみた。

今回も支部指導司祭のバルデスマサニエラ神父を主任講師に、東門師(G.S.奈良1)、B.S.奈良4団指導司祭、柳本師(青年センター所長)、北村師(西院教会)の応援を得て講座を開いた。

巧みな講座展開でスカウトも熱

心に話に聞き入り、バルデスマサニエラ神父を主任講師に、東門師(G.S.奈良1)、B.S.奈良4団指導司祭、柳本師(青年センター所長)、北村師(西院教会)の応援を得て講座を開いた。

巧みな講座展開でスカウトも熱心に話に聞き入り、バルデスマサニエラ神父を主任講師に、東門師(G.S.奈良1)、B.S.奈良4団指導司祭、柳本師(青年センター所長)、北村師(西院教会)の応援を得て講座を開いた。

この取得並びに認定スカウトたちは、このキャンプに5回、6回と参加したスカウトたちで、やつと各団の中にスカウトへの信仰教育の目覚めらしきものを感じたよ

うになつた。

今年もこの練成キャンプを開催できることは各団指導者、団委員、父兄の方々の信仰教育への目覚めと、快くキャンプ施設をご提供頂いた「指月林」のお陰と深く感謝を致しますとともに、見えない方で私たちを包み導かれる神のみ技に感謝するところです。

一年に及ぶ北村師の宗教関連章中に5名のS.S.に宗教章の授与並



NICE II 準備委員会

ロード

①アンケートと報告書

- 皆さん、アンケートへのご協力ありがとうございました。皆さんから寄せられたアンケートは8月18日の代表者会議でまとめられました。これをもとに、京都教区としての最終報告書を作成し、9月初めに中央協議会NICEII事務局へ送付、長崎での会議の資料となります。

- 二日目は課題一、二への取り組みの報告と分かち合い
- 三日目は課題三への取り組みについて、将来への展望
- 四日目はまとめ（将来への展望）と閉会ミサ
- という流れです。これをもとに事務局でさらに細かい時間配分や分かち合いの方法について検討されます。

④長崎会議に向けて

カトリック新聞（7月11日号）
でも報道されていますが、6月に
行われた司教総会で「NICE-
II成功のために祈りの月間を設け
る」ことが決められました。

いよいよ長崎での会議まであと二ヶ月余りとなりました。京都教区からは11名の代表者と司教、広報担当者（村上透牧師）が参加し

る」ことが決められました。
期間は9月19日(年間第25主日)から10月24日(年間第30主日・世界宣教の日)までの約一ヶ月間です。特にNICE IIで取り組んでいる教会共同体の回心のために、皆さんのお祈りをお願いします。

③長崎会議のプログラム

同じく司教総会で長崎会議のプログラムの大まかな流れが確認されまし

区の人々の声を伝えるよう努力いたしましたが、また同時にNICEは代表者だけのものではありません。代表者としてできるだけ教音宣教共同体作り」をそれぞれの現場で行うことこそがNICEです。長崎会議後も、そのNICEの歩みを地道に続けてゆきましょ

●一日目は開会ミサ、オリエンテーション、基調考察

昭本柳 様當同祭

話す——放すに通じる。

聴く――注意して聞く。心から受け入れて聞く。

分かち合いはただ聞くのではなく、心から相手を受け入れて聴くことと講演。

一、分かち合い（記録はなし）5
から6名に別れてグループ分かち
合い。

一、グループ代表によつて分かち
合いの感想発表。

・内容はすべて忘れましたが、何かさっぱりとしてすがすがしい感

じです。

りいやな感じでしたが、それがなくよい集まりでした。また、参加

したい。

「どこの教会にいっても、誰か
た。

が話しかけてくれるので、教会は
やすらぎの場です。」

・年老いても体の動くうちに、教會で働きたい。

・キリスト者の共同体である教会です。老若男女すべての人の働き

がいのある場にしたい。

これ程多くの声を聞くことができたのは聖靈の働きと神に感謝いた

（代表MO）

青少年担当者会議

少年委員会主催の全国青少年担当者会議では3年前から「青年の部」を設け、青年の話し合い、担当者との話し合いを行なっています。今年は、京都教区からスタッフとして西大和の田川淳君、参加者として西院の栗井寛君、鈴鹿の千葉あゆみさんが参加しました。

長崎で学んで来たこと

千葉あゆみ(鈴鹿)

7月2日～5日、長崎カトリックセンターにて全国青少年担当者会議が行われ、約25名の担当者と70名の青年が参加しました。

3日の朝と夜、4日の朝と3回に分けて、グループ別に「あなたは何を大切にしていますか」をテーマに話し合いの場が持たれました。私の班では、テ

ーマはあまり意識せず自由に話しました。主に教會の中の青年の役割、司祭とのつながりがとりあげられ、その中で特に私が感銘を受けたのは、「青年部はお客様という意識がある。教會や司祭があつて、その上

あんてな (((((○)))))

はなく、青年の活動、考えや思想が、現代の教会や神父をつくりあげていく」という言葉でした。その他にもはつとさせられる点がいくつもあり、教会や担当者に対する視野がとても広がりました。

その他にも、3日の午後に市内観光にいって、二十六聖人記念館や大浦天主堂を見に行ったり、また2日と3日の夜には交流会が行われ、長崎の青年によるハンドベルの演奏、コーラスやクイズが行われたり、特にグループ別の出し物では、班で話し合った事を題材に、現代の教会や司祭・青年・ミサの様子を寸劇にして上演したグループが多く、所々ギヤグを交えたりして、楽しいながらもいろいろと考えさせられるものがあつて良かった。

今回の集まりで、最近しほみかけていた私の心が一気に膨れあがった感じです。参加して本当によかった。京都教区の青年がもつともつとこのような集まりに参加して、たくさんの事を得て、青年の活動に生かしていく欲しいと思いま

(((((○))))) あんてな



アジア交流委員会 林 和子

和やかな雰囲気を感じて私はほんとにこの会に携われてよかったですと思いました。

日本人にとってバングラディシア交流委員会とシャブランティア団体の共催でバングラディシユから女性2人を招き、手工芸品の実演会を行いました。説明をまじえ鮮やかな手つきでジユートから籠を作つたり、仕事の苦労話や自給のことも語つてくれたりしました。参加者からも活発に質問がとびだし和気あいあいとした会になりました。

他にも手工芸品の即売や浴衣とサリー(バングラの民族衣装)の着付けもしました。これはゲストもまじえ参加した女性がお互いの国の民族衣装を着たのですが、とても好評でした。

日頃とは全く違う雰囲気のこの会の中で私が一番うれしかったことは、各テーブルで私たちが昼から用意していたカレーをおいしそうに食べててくれ、そしてみんなで楽しそうに話し合っていたことです。日本に来て、友達ができるからうれしい。

この気持ちをもつと多くの人に味わつてもらいたく、また私自身も味わいたいので、またこの企画があることを心待ちにしています。その人の楽しそうな顔やまわりの

教区スケジュール

26日(日)運動会

(聖マリア養護学校)

9月5日(日)結婚互助会相談室

(河原町カトリック会館)

▽バザー(九条教会)

9日(木)司祭評議会

(河原町カトリック会館)

10日(金)体育祭

(聖母学院中高等学校)

▽信睦二金会(西陣教会)

▽社会司教委員会

・田中司教参加(東京)

11日(土)伊勢保育園二十周年

12日(日)坚信式(西陣教会)

▽敬老会(大津教会)

16日(木)司教顧問会

(河原町カトリック会館)

▽敬老の集い(大津教会)

17日(金)25日諸宗教平和祈願の集い

田中司教参加(ミラノ)

19日(日)聖書と差別シンポジウム

(河原町教会)▽カトリックスカウトの日
(奈良教会)

▽京都南信協評議会

25日(木)26日(金)文化祭

(聖母学院中高等学校)

25日(木)26日(金)1日神学生入門(桂教会)

Sr.フイデリス河野
Sr.アガタ大野

+帰天

〔訂正〕

12月19日(日)Xマスページェント

(セントヨゼフ女子学園)

〔追加〕

9月15日(水)バザー衣笠教会

9月26日(日)バザー西院教会

10月28日(木)男女管区長会議

(ヴィチャ修道院)

11月14日(日)奈良司牧大会

(登美ヶ丘教会)

11月16～26日

みことばを書こう書道・絵画展

(取り消し)

11月14日(日)山科教会坚信式

11月14日(日)山科教会坚信式

▼金祝おめでとうございます

お知らせ

▼聖書と差別シンポジウム

シンドローム

・泉十次(日本キリスト教団牧師)

・小久保喜以子(ノートルダム教

育修道女会シスター)

・本田哲郎(フランシスコ会司祭)

会費・5百円

問い合わせ・部落問題委員会まで

075-223-2291

あなたの良き隣人として

カトリック御葬儀
貨物一式(仏式可)

聖ヨゼフ葬典社

パウロ 杉下安雄
(西院教会所属)京都市右京区西院寿町23
(075)312-7829

▼結婚講座のお知らせ

対象・教会で結婚式をなさる方

日時・9月4日～10月2日

毎土曜日午後2時～3時半

場所・西院カトリック会館

費用・一人5000円

申し込み・各教会へ

問い合わせは福音センターまで

柳本・島本075-822-7123

・モニカ渡辺ちよさん

6月21日 Sr.ヴァージニア渡辺

(ノートルダム教育修道女会)母上

累計 3,626,278円

加入者 660名

(7月21日現在)

日時・9月19日

主会場・奈良教会

▼カトリックスカウトの日の案内

テーマ・キリストの苦しみ、

世界の苦しみ

10時～ハイキング・14時～ミサ

7月号の4頁4段目13行目で、

BBCはBECの間違いでした。

8頁2段目16行目で、8日は19日

の間違いでした。ここに訂正して、

おわび申し上げます。

▼編集部よりの訂正とおわび

7月号の4頁4段目13行目で、

BBCはBECの間違いでした。

8頁2段目16行目で、8日は19日

の間違いでした。ここに訂正して、

おわび申し上げます。